



# 安全安心だより No.6

～登下校の子どもの安全をみんなで守ろう！～

## 【犯罪機会論】

当センターでは市内各小学校のPTAの方に、立正大学の小宮信夫教授が提唱されている「危険な場所の見分け方」を説明し、「防犯の観点から通学路の安全を考えてみませんか？」と一緒に通学路の点検も行いました。

今回は、この考え方のもとになっている「犯罪機会論」を紹介します。

犯罪機会論＝犯罪の機会（犯罪が成功しそうな雰囲気を作り出す場所・状況・環境）を与えないことによって、犯罪を未然に防止しようとする考え方。

不審者・犯罪者といった「人」ではなく、犯罪が起こる「場所」に注目し、そうした場所をできるだけ避けて行動する、自分自身で警戒レベルをあげるなどの対策により、犯罪を大きく遠ざけることができる。

犯罪が起こりやすい「危険な場所」とは？

× 危険な場所 = 入りやすい場所 + 見えにくい場所

○ 安全な場所 = 入りにくい場所 + 見えやすい場所

### 入りやすい場所

誰もが簡単にそこに入ることができ、そこから簡単に出て行ける場所。犯罪者は、簡単にターゲットに近づくことができ、すぐに逃げることができる。

例)

- ・きちんと区切られていない。
- ・入るのに邪魔になるものがない。
- ・近所の人々が犯罪者に注意していない。

### 見えにくい場所

その場の様子をつかむことができにくい場所。犯罪者は、犯罪の準備を悠々とすることができ、また、犯行そのものを目撃される可能性も低い。

例)

- ・見るのに邪魔になるものがある。
- ・暗い。見渡せない。
- ・近所の人達が地域のことに興味がない。

危険な場所を避けるためには？

人はウソをつくが、「景色」はウソをつかない→ 危険な場所を見分ける「景色読解力（「入りやすく」「見えにくい」場所を見分ける判断力）を身に付けよう！

参考文献 小宮信夫 著

- 地域安全マップ作製マニュアル（©東京法令出版株式会社）
- 子どもは「この場所」で襲われる（小学館新書）

○ 実際に、子どもの通学路やふだんよく行く場所を歩いて、「危険な場所」を探してみましょう。

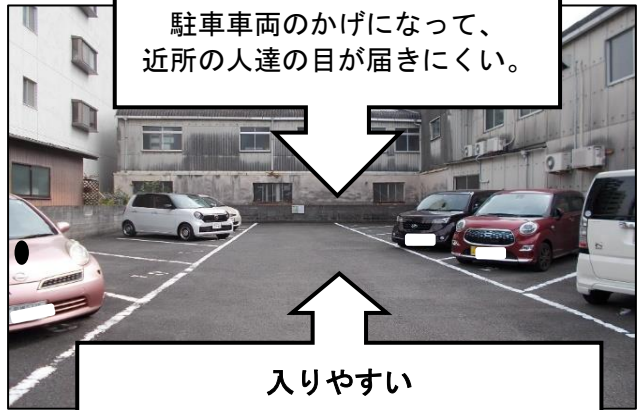
### 【田んぼの中の道】



**見えにくい**  
見通しはいいけれど、付近に住宅がなく、近所の人達の目が届きにくい。

**入りやすい**  
・入るのに邪魔になるものがない。  
・車道と歩道を区切るガードレールなどがない。

### 【駐車場】



**見えにくい**  
駐車車両のかげになって、近所の人達の目が届きにくい。

**入りやすい**  
・入るのに邪魔になるものがない。

### 【不特定多数の人が集まる駅前広場など】



**見えにくい**  
不特定多数の人が集まったり、行きかたりする場所では、他人への関心や注意が分散されてしまう。

**入りやすい**  
区切られていない。

～担当者のひとりごと～  
いろいろな観点で身近な危険を知って、自分の身を守る力をつけることも大事だね。

～「子ども安全安心対策推進事業」に関するお問合せ等は～  
松山市教育支援センター事務所（安全・安心担当）

電話：089-943-3205まで

※学校評議員会、PTA、関係機関などとの連携に、ご活用ください。